日本福祉大学福祉社会開発研究所『日本福祉大学研究紀要－現代と文化』
第121号　2010年3月

〈追悼〉

名付け親岸本晴雄教授の死を悼む

岸本先生とともに本誌の創刊にあたった.「研究紀要〈文化領域〉」という題名が古臭いと先生も私も感じていた．当時，『大学評論』も休刊中であり，領域を広げ，自由に意見や解釈が公にできるものにしようと，編集委員会議はまとまった．そして，編集大方針としてはこんなことが議論されて，了承された.

＊ジャンルは自由で，自由に意見発表ができる紙面づくりにする.
＊編集委員会は権威主義的な対応ではなく，自由な発表を保証する.
＊可能な限り，世界や国内情勢，あるいは文化状況などを捉え，特集をくんでいくことにする.

そして，本誌の名称をどうするかが，この後の問題になり，あれこれ出されてきたが，結局，岸本先生の最初にだされた「現代の文化」から，編集委員の意見も取り入れて，ここに『現代と文化』が創刊された．今から，15年前のまさに20世紀だった．本誌も多少趣を変えてきたが，刊行当初の「人間が過去に置き忘れてきた重要な〈価値〉を再認識し，それを基盤に，21世紀の社会のシステムを再構築していくための手段（武器）を提供することにある，経済が主人公であった時代から，自然や人間が主人公になれる時代への橋渡しのきっかけに」なればという，第102号（2000年3月）の巻頭言の言葉は，その先見性とともに，世紀を超えて重い意味を持って実践にうつされようとしている．時宜にかなった特集，イラク戦争勃発時には〈戦争と平和〉を特集し，学園祭でシンポジウムを開催したこともあった.

岸本先生！先生にご尽力頂いて産み出した『現代と文化』は，時代の荒波に抗してたくましく舵をとって進んでおります．先生のキャラクターのひとつ，優しいほほ笑みを浮かべて，この船の行く先を見守っていてください．先生のご逝去をお悼み申し上げます.

2010年3月24日

創刊時編集委員会を代表し
福祉経営学部教授
内野　信幸